



教師自身が楽しむこと

旭ヶ丘小学校

運動会で太鼓を使ってアフリカの踊りをしました。プラスチック製のゴミ箱を太鼓にしたのですが、子どもたちの「本物の音に近づきたい!!」という願いから本格的な太鼓作りを始めました。

太鼓作りをインターネットで検索し、ドッグフードの牛革が太鼓の皮として使えることを知りました。

皮は最初、叩いたり紅茶で鞣したりしましたが、どれも効果はあまりなく、水に一日浸して柔らかくなったものにポンチで穴をあけ、ロープで絞めました。胴体は運動会で使用したゴミ箱では、ロープの張りに耐えられずに変形したので、須坂市や長野市の給食センターで使用したトマトケチャップ缶をいただき、胴体としました。ロープの絞め方も工夫して、より強く張ることで高く気持ちよく音が響くようになりました。この太鼓を手にした子どもたち、本物の皮を叩く心地良さ



(三浦 明宏)

や音の響きを楽しむ顔に、教材研究の大切さを学びました。多くの先生に関わっていたくうちに、日々改善されていく太鼓の作り方や音に驚きと感動がありました。教材のめり込めたのは、同じ思いを持って共に切磋琢磨する仲間がいたからこそです。兄弟のように辛苦を共にする同僚に出会えたことに感謝し、教材や仲間を大切にしていきたいです。

第213号

発行所 上高井教育会
発行人 上高井教育会理事長 和田中利和
編集人 会報編集委員 長子裕子
印刷所 古川新聞社 須坂新

「ソート サワサワ」

命の重さはみな同じ

小山小学校

六月二十四日。タンザニアから日本にお嫁に来られ、三水村に住んでいらっしやる小林フィディアさんが、六年西組に来てくださった。

フィディアさんは教室に入りなり、窓から見える臥竜山と透き通る青い空を見て、「わたしの故郷の自然に似ています。本当にきれいな」とおっしゃった。

そして、「私はタンザニアで毎日、家のお手伝いをしています。」と言って、教室にあるバケツを頭に乗せ、バケツから手を離して歩き出した。子どもたちは「やってみたい!」と喜び、挑戦!けれどこれがなかなか難しく、バランスよく歩くことができない。「私はこれに物を入れ運びました。三十キロまでなら大丈夫です。」という言葉にまたまたびっくり。

その後、タンザニアの歌やそれに合わせたリズムを教えていただき、一緒に踊った。体全体でリズムをとり、陽気に歌を歌うフィディアさんと楽しい時を過ごした。

また、子どもたちの質問にもいろいろ答えてくださった。繰り返し強調されていたことは

「人はいろいろな違いがあっても、命の重さはみな同じ。」「人のやっていることはみんな『心の問題』。人間は弱い。時々、心が負けてしまうけど、本当に優しい人は心の中が強いのです。」ということ。



フィディアさんは子どもたちの心の中にいろいろな種を蒔いてくださった。今、心の中にはある種を大事に育てて、自分を振り返ったり視野を広げたりするいい機会としていきたい。(佐藤真理子)

教育会だより

7/30 教育会講演会メネテ小ホール

○講師 精神科医 名越康文先生

○演題 「親子教師のコミュニケーション」

7/28〜8/6 同好会夏期講習会

8/18〜20 日本連合教育愛媛大会めぐみホール他

「変化する社会を心豊かで健康やかに生きる日本人の育成」

研究推進委員会

8/31 研究推進委員会③

9/1 第4回理事会

9/10 第5回同好会

9/13 第4回代議員会

10/2 上高井教育研究会(相森中)

10/5 研究推進委員会④

10/6 第5回理事会

10/16〜17 郡市児童生徒科学作品展 (旧上高井郡役所)

10/22 第6回同好会

10/26 信教全県研究大会東北信B長野上木内

10/29 研究推進委員会⑤

11/11 信教全県研究大会東北信A上小

11/11 第6回理事会

11/16 研究推進委員会⑥

11/17 郡公開研究会中心講師 益地憲一先生

◎賞案研究委員会小布施

○国語高山中、社会高山中、算数・数学相森中、理科小布施中、生活総合森上小、

図工・美術高山小、体育・保健豊洲小

家庭技交常盤中、英語活動・英語東方小

道徳・特別活動相森中、特別支援教育相森中

健康教育日蓮小、人権同和教育旭ヶ丘小

11/20 「信州教育の巨匠」第9回中野大会中野市民会館

「とも」子ども育つ環境づくりをめざして

シンポジウム(子どもたちにむかっ)を催し

11/26 中間監査会

11/27 第7回同好会

11/30 第5回代議員会

12/3 研究推進委員会⑦

12/20 第3回研究委員長会、研究企画委員会合同会

12/21 上高井教育会会報第213号発行

12/22 第8回同好会

園芸高校との交流

森上小学校

森上小学校では、隣接する園芸高校と、日常的に交流活動を行っています。

春先に行うのは、花壇への植

栽。「あいさつ道路」(園芸高校との間の道路)の西の角にある三角形の小さな花壇をフレンドパークと名付け、そこへ本校の栽培委員会の子どもたちと園芸高校の生徒たちで苗を植えます。園芸高校で育てたマリーゴールドなどの苗を、高校生たちが「根は、このくらいくずして。」等と、小学生にもよく分かるように丁寧に教えて



くれながら、一緒に植え付けていきます。毎年きれいな花壇になり、近所の方々も楽しみにしてくれています。

タマネギの植え付けや収穫の体験も、一緒にやらせてもらっています。今年も、十一月初めに、五年生が六百本の苗と一緒に植えてきました。収穫したタマネギは、給食に使われます。子どもたちは、今から、来春の収穫を心待ちにしています。

(武居 敦子)

東京理科大との里道づくり

小布施中学校

という体験をしました。

小布施中の一学年は、東京理科大まちづくり研究所主催のワークショップ「里道づくり」に参加しました。これは、「体験を通して自分たちの地域の美しさに気付いてほしい」「自分達の手を動かすことで小布施らしさを残すことができることを学んでほしい」といった思いから企画されたものです。

里道とは、その地域の人によって日常生活の中で管理されてきた生活のための道です。今回は、里道を「たたき」という伝統技法を使って整備する

という体験をしました。八月二十五日は暑い日でしたが、作業が始まると学生と一緒に生き生きと活動する生徒の姿が見られました。生徒の感想には、「小布施らしい道ができた」「コンクリートの道と違い、人の優しさが感じられる」「新しく作るのではなく、前からあるものを残すのがよかったです」など前向きなものが多くありました。

さらに、「この道がずっと残ってほしい」そして、「多くの人に歩いてもらいたい」と

いった感想もありました。生徒が小布施町の住人としての思いを感じられる活動になったことがうれしかったです。企画された理科大の皆さんには感謝の気持ちでいっぱいです。

(本間 大志)



カモシカ広場フェスティバル

常盤中学校

本校敷地内東側の空き地を「カモシカ広場」と名付け、生徒や地域の方々が増えたり、学習に役立てたりできる環境にし、子どもたちに「郷里の自然や町を愛せる大人に育って欲しい」という願いから平成十八年度から整備してきている。



この広場には、隣接する鎌田山に住むカモシカが時々折顔をみせる。子どもたちは

本多博士の生き方やお考えを教材化し、総合的な学習や環境教育、道徳などで扱ってきた。このカモシカ広場を利用して、毎年校友会(生徒会)主催行事「カモシカ広場フェスティバル」を開催している。

本年度は緑化委員会で「実りの畑」で育てたサツマイモを使って焼き芋会を行った。また焼き芋が焼けるまでの時間を利用して、「校友会各委員対抗レクリエーション」も行った。



レクは毎年運営委員が工夫を凝らした企画や運営をしている。

そのカモシカを「トッキー」と呼び親しみを持っている。今までに「アジサイロードとお花畑」「実りの畑・実りの林」「タンポポ広場」等整備し、「育てて(広場を)育つ(私たちも)カモシカ広場」を合言葉に、学校・生徒・保護者・地域の方々により作業が進められてきた。

また、「日本の公園の父」本多静六博士が大正十五年に提案された「須坂町公園設計案」にも関係が深いことから、

今年初めて参加した一年生は、「ピンポン玉リレーがすごく楽しかった。」「最後に食べた焼き芋がおいしかった。」「また来年も楽しみたいです。」等の感想を寄せてきている。年間を通して生徒がゆっくりくつろげる秋の良き一日となった。

(黒岩 和男)

ランドセルギフトの夢と感動

相森中学校

相森中学校では、生徒とPTAが一体となって「想い出のランドセルギフト」の活動に参加しました。これは、NGO法人ジョイセフを通して、日本の小学生が使い終えたランドセルを、満足な校舎もないアフガニスタンの子ども達に贈ろうという運動です。日本から贈られたランドセルは子どもたちが学校へいくきっかけになり、教育復興に役立つのです。

しかしランドセル一個につき一八〇〇円の募金が必要で、これが大きなハードルでした。そ



こでPTAの理解を得て資源回収の収益金の一部をこれに充てました。また生徒会が主体的

に動き、生徒達のカンパや書き損じハガキ収集、街頭募金活動の実施などでその資金を工面しました。ハードルがあったからこそ生徒達は課題解決のために工夫し、主体的な活動につながりました。

国際貢献活動を通して、恵まれない子どもたちの役に立てる自分達になり自尊心や生徒の情操を向上させることができました。新聞やラジオの報道にも助けられ、多くの住民からも寄贈いただきました。九月には全てのボランティアが集結し感動の内に二百個のランドセルを発送することができました。(月岡 英明)

親子でクッキング

日野小学校

四年生では、子どもたちや保護者が地域の食料や農業事情について理解を深め、ごはんを中心とした日本型食生活の大切さを学ぶことなどを目的に、松竹ニクラスがそれぞれ三回ずつ親子で料理を行う計画で取り組んでいます。

四月に学年PTAとして計画を立てた頃には、三回のうち一回はお母さんたちに来てもらえればいいですね、という感覚で見通していましたが、実際にやってみると毎回、ほぼ全家庭から保護者の方が参加し、負担

をかけ過ぎたかな、という思いもあります。

しかし、内容はたいへんに濃いものがあり、子どもたちもちろんのこと、お母さん方にとっても、料理の技術からほじまって多くの意味で非常に得るもののある大きな行事であると考えています。市の健康福祉部健康づくり課から二名の、また県の栄養士会から四名の講師の方をお招きして指導していただいています。

一回目は、菓(も)り卵などを、二回目はさんまのカレー焼き



などを作りました。さんまを包丁でさばいた子どもたち、知恵と自信を得て、「いただきます」の意味を体で学んだ様子でした。三回目も楽しみにしています。(大蔵 一雄)

本校の宝 ⑤⑦ 東中学校

全校制作・モザイク壁画

東中学校では、文化祭の開祭式で巨大モザイク壁画が披露されます。毎年生徒会本部役員が生徒会スローガンにちなんだデザインを考え、加工した画像を基に制作していきます。今年度も全校集合写真を入れたいの願いから七月二十一日に撮影、準備がスタートしました。

夏休み中に一セ



ンチ四方のチップを切っていくます。チップの総数は、二十一万五千七十六枚。本当に気の遠くなるような作業でした。何とか下準備をいよいよ全校で制作を開始、A4サイズの用紙に指定され

た色の通り、チップを糊付けしていきます。一人あたり約千枚ものチップを貼りました。細かな作業ですが、どのクラスも真剣に取り組んでくれました。貼っている時は、どんな形に出来上がるのか全く分からない状態です。それがまとまっていく中で、はじめて姿を現し、一つの作品となるところにこのモザイク壁画の面白さがあるように思いました。ここから張り合わせる作業



過去最高チップ数 210576枚!!!

も、試行錯誤の連続でした。文化祭当日、ブルーシートで覆われたモザイク壁画が、副会長の合図のもと披露されました。大きな歓声とともにこの瞬間に無事たどりついたことに、そして何よりこの大作を生徒自身の手で作上げたことに感動を覚えました。(中村 充)

火ばら 談義

栗の町のブドウ

蟹澤 堯

栗が有名な小布施ですが、リ
ンゴやブドウも盛んに作られ
ています。

五年生は総合的な学習の時
間の中で、地域の作物栽培につ
いてクラス毎に学んでいます。
二組は地域の方をお願いして、
ブドウについて学習しています。
地域の方の畑にお邪魔して、
ブドウづくりの工夫や苦労な
どをお聞きしました。子どもた



カット
小布施中 永井文章

ちも気になることを質問して、
自分たちで調べて、ブドウに詳
しくなっていました。そして
十月、ブドウの収穫に合わせて、
ブドウの試食をさせていただき
ました。

私自身、ナガノパープルを食
べたのは初めてだったので、
程よい甘さと、皮までおいしく
食べられる食べやすさに、びっ
くりしました。子どもたちも
「おいしい」「甘い」と、終始
笑顔でした。地域の方のご協力
をいただき、そういった経験
をさせていただき、本当にあり

底に埋まり腐っているのは、綺麗
な川だとは言えない状況になっ
ていた。

JRC活動

宮尾 美輝

総合的な学習で六月に田植
えを行った。その後、学年で豊
洲小学校のすぐ側を流れる八
木沢川に入った。川での遊びに
なれている子も多く、物怖じせ
ずに、魚を捕まえようとして、
水をかけ合ったりして楽しく
遊んだ。その中である子が「メ
ダカもいるし水はきれいに見
えるけど、八木沢川には、いろ
んなゴミがあるね。」と語って
くれた。改めてよく見てみると、
タイヤは落ちていているは、缶は川



そこで、JRC活動とも兼ね
て取り組むことになった。第一
回目、九月二十一日に八木沢川
の清掃を行った。缶やペットボ

がたいです。



一緒に、種なし巨峰、種あり
巨峰も試食さ
せていただき
ました。種をな
くす方法など
を事前に聞い
て興味をもっ
ていただけに、
味の違いも
はっきりと分
かります。甘さ
が大きく違い
ました。

また、シャインマスカットも
試食させていただき、繊細な味
に驚きました。他にも、いくつ
かの種類のブドウが小布施で
作られているそうです。

栗だけでなく、ブドウも本当
においしい町です。小布施に来
る機会がありましたら、ぜひご
賞味ください。(栗ガ丘小)

トルなど多くのゴミがあった。
他には、炊飯器の蓋や農薬の袋、
長靴などポイ捨てとは明らかに
違うゴミまで拾うことができ
た。二時間で拾えたのは五十斤
ほどであった。次の週にも川に
入ったが同じように多くのゴミ
を拾うことができた。二回で拾
ったゴミの量は、二十八・七キロ
グラムにもなった。その後の話
し合いで、このまま拾っている
だけでは、次から次へまた捨て
る人がいるので、この川の現状
を地域に訴えていこうと新た
に計画された。これから子ども
たちと奮闘していこうと思う。

（豊洲小）

「ピカピカ一年生」との日々

仁礼小学校

新井 雄太

昨年度担任をしていた六年
生を卒業させてから数ヶ月が
過ぎました。今年度はちょっと
大きすぎるランドセルを背負っ
た一年生の担任。不安と期待で
いっぱいの子ども達以上に、初
めて一年生の担任になる私は、ド
キドキ、ワクワクで入学式を迎
えました。高学年と比べて低め
の机や椅子に違和感を覚えた
四月の教室も、今では私にとっ
て居心地のよい温かな空間に
なっています。

教室の場所や学校生活の過
ごし方から始まった一年生の学
習。学校生活ゼロからのスター
トは、語り尽くせないほどの笑
いや驚きでいっぱいでした。し
かし、それ以上の感動もありま
した。



初め
ての小
学校の
運動会
暑い中
毎日練
習し、
指の先
まで使
って楽
しく表
現ダン
スをする姿。見ているこちらま
で元気になります。音楽会では
よい緊張感の中、私の指揮を
じっとみて演奏したり、歌を
歌ったりする姿。練習の成果を

十分発揮し、聞いている人達
の心を和ませてくれました。ど
んなことにも一生懸命な子ども
達の姿に、私自身たくさんのこ
とを学ばせてもらっています。
この子達が卒業の時、どのよう
に成長しているのかとても楽
しみです。

明日からも全力で向かって
くる子ども達に全力でぶつかっ
ていきます。

編集後記

二期も残りわずかになりました。
昨年二期は新型イン
フルエンザの流行により、一部行
事が行えないなど日々の教育活
動に様々な支障がありました。
今年の二期は、今のところイン
フルエンザの流行もなく、各校と
も年度当初に計画した学校行事
などが滞りなく行われたことと
思います。教育活動の充実と共
に、子どもたちが元気に学校生
活を送れることに喜びを感じる
二期でもあったことでしょう。
さて、ここに上高井教育会報
二二三号をお届けします。各校の
充実した教育活動や会員の先生
方の熱い思いを感じていただけ
たのではないかと思います。
お忙しい中、玉稿をよせていた
だいた先生方に心より感謝申し
上げます。

よいお年をお迎えください。
（青木）